

OpenLM Agentエンドユーザーインターフェイス - KB4038

一般知識

OpenLMは様々な同時使用ライセンスマネジャーを監視するソフトウェアライセンス監視ツールです。ライセンス使用量最適化やアプリケーション使用量管理など生産性あるツールです。

OpenLMは主に2つのインターフェイスを提供します。

- EasyAdminウェブアプリケーションはマネージメントやシステム管理者用です。
- OpenLM agentはエンドユーザー用です。本書で説明いたします。

OpenLM Agentはエンドユーザーのワークステーションにインストールされる軽量の追加ソフトウェアです。システム管理者に依存しすぎないようにエンドユーザーにいくつかの能力を与えます。Agentは組織のネットワークにマイナスのインパクトは与えません。ユーザーの特定の仕事分野に応じて、安全なアクションを実行する機能に限定しております。

OpenLM Agentが提供する機能

OpenLM Agentは仕事環境に多くの点で影響を与える広範で様々な生産性ツールを提供します。

誰がライセンスを取った？

エンドユーザーは必要とするライセンスを誰が取ったか検索でき、その人物にコンタクトできます。

アイドルかアクティブか？

アイドルのセッションが監視でき、OpenLM EasyAdminでグラフで見ることができます。詳細は[アプリケーションのアイドル時間監視](#)をご覧ください。

アプリケーションの手動シャットダウン

管理者は手動で特定のアプリケーションをシャットダウンでき、ライセンスをプールに戻すことが可能です。[CCLウインドウで手動でライセンスを取り戻す](#)



自動アイドルライセンスの回収

OpenLM Agentはソフトウェアを自動的にシャットダウンし同時に使用ライセンスを回収する様々な方法を利用します。下記を参照ください。

- [アイドルアプリケーションのライセンス回収 - 強化された Agent プロシージャ](#)
- [アイドルアプリケーションのライセンス回収 \(MATLAB, Autodesk, ArcGIS, Solidworks\) - Save and Close \(保存と閉じる\)](#)
- [アイドル FLEXLM アプリケーションのライセンス回収 - Suspend and Resume \(一時開放と再開\)](#)

シャットダウンされたライセンスの通知は EasyAdmin を設定することで可能です。EasyAdmin Start (スタート) → Administration (管理者パネル) → "Agent Policy" (エージェントポリシー) → "Notification for recently closed applications" (最近閉じられたアプリケーションの通知)。

非管理ライセンス

OpenLM は広範囲のライセンスアプリケーションを監視し、特定のタイプのライセンスサーバーを直接クエリーする事で、ライセンス使用状況の統計を提供します。OpenLM は可能な限り多くのライセンスサーバーをサポートする事で、その能力の強化に努めております。それにもかかわらず、ライセンス使用状況のクエリーを適用する専用のインターフェイスを持たないライセンスサーバーもあります。

そのような場合、OpenLM Agent はエンドユーザーのワークステーションで使用状況の統計を集計することが出来ます。OpenLM ではこの機能を "Unmanaged licenses" (非管理プロセス) と呼びます。これについての詳細は [非管理ライセンスの場合](#) をご覧ください。

ライセンス管理

OpenLM Applications Manager はベンダーのライセンスマネジャーのシェルとして動作します。ベンダーのライセンスマネジャーで提供されない複雑なライセンス管理機能を提供します。ユーザーにとってベストな形をとるように設計されており、ソフトウェアのコントロールを定義できます。

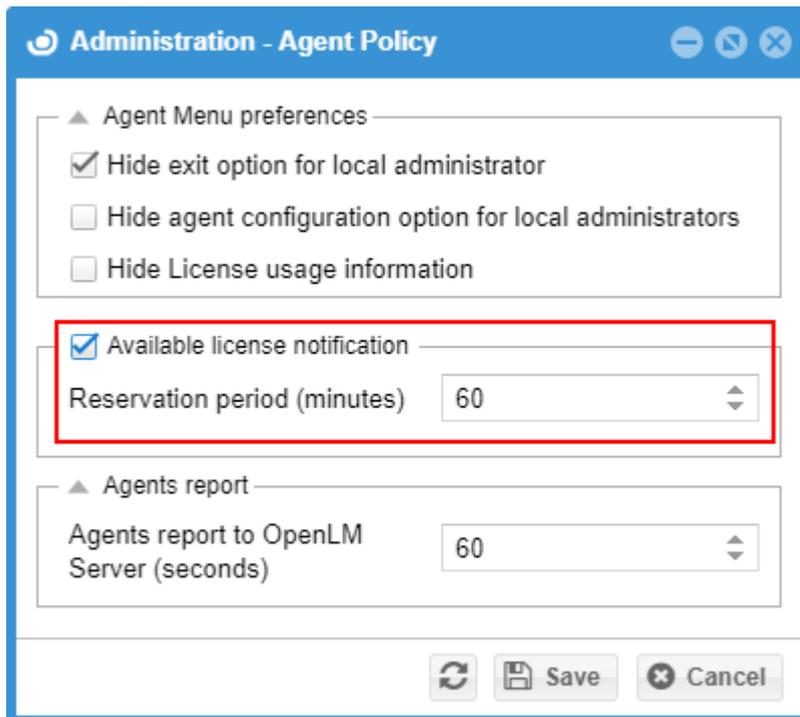
OpenLM Applications Manager は OpenLM Agent を通してエンドユーザーのワークステーションと通信します。事前に定義された



設定に基づいて、アプリケーションの立ち上げを妨げるように設定できます。

ライセンス利用可能通知

ライセンスプールが消費され、エンドユーザーがチェックアウトで拒否された後、ライセンスが再び利用可能になった時に、ユーザーはライセンス利用可能通知を受け取ることが出来ます（下図参照）。このオプションはEasyAdmin スタート → Administration（管理パネル） → Agent Policy（エージェントポリシー） → “Available license notification（利用可能ライセンス通知）” チェックボックスをチェック。



プロジェクト

OpenLMはプロジェクトに応じてライセンス使用状況をログするように設定できます。OpenLM Agentは現在アクティブなプロジェクト名をメニューからエンドユーザーに選ぶように促します。そのワークステーション上の全ライセンス使用状況を選択されたプロジェクトに、設定に変更があるまで紐づけます。プロジェクトに応じたライセンス使用状況のログについての詳細は[プロジェクトに応じたライセンス使用状況の監視](#)をご覧ください。

ArcGISライセンスレベル

OpenLMは元々、ESRI ArcGISのベテランによって書かれています。ですので、いくつかのArcGISベースの利点が含まれています。ArcGISライセンスレベルの設定がその一つです。

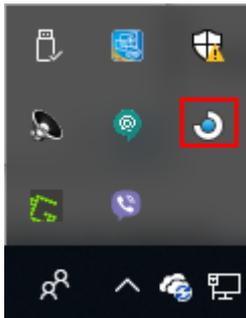
追加情報

Agentによって、ワークステーションのIPのような追加情報がOpenLM Serverに提供されます。

インストール

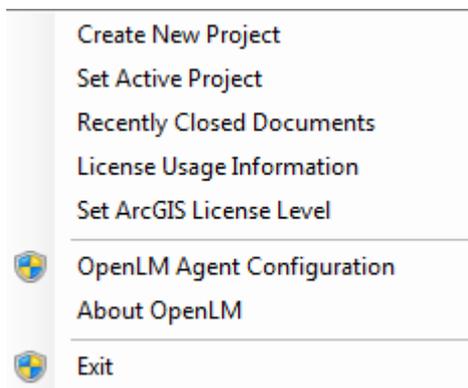
OpenLM AgentはOpenLMウェブサイトの [Downloads](#) ページで手に入ります。OpenLM Agentはワークステーションごとに手動でインストールしたり、スクリプトによって大量配布インストールができます。 [KB804](#)

インストール中、特定のサポートするアプリケーションのためにOpenLM拡張機能を追加するかどうか選択するように促されます。この改訂を編集集中の過程で、これらのアプリケーションはArcGIS、Autodesk、MATLABとなります。OpenLM拡張機能はセッションを「保存し閉じる」のような追加機能を提供し、ArcGISライセンスレベルを管理します。(下記参照)
ワークステーションにインストール後OpenLM agentアイコンがタスクバーに出来ます。



Agentインターフェイス

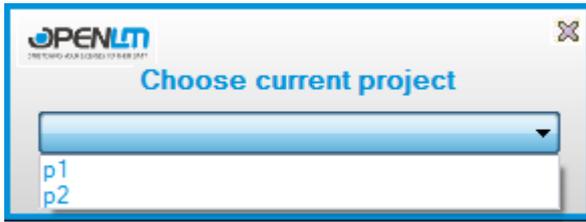
アイコンを右クリックして次のメニューを表示してください。



新しプロジェクトを作成しアクティブプロジェクトを設定



上述されたように、OpenLMはアクティブプロジェクトに応じてライセンス使用状況を結びつけます。エンドユーザーはアクティブプロジェクト名を作成でき、ドロップダウンリストからアクティブプロジェクトを選択するように促されます。



“Set Active project”（アクティブプロジェクトの設定）や“Create new project”（新プロジェクトの作成）オプションはデフォルトで非表示になっております。表示させるにはEasyAdminのブラウザを開きStart（スタート）→ Administration（管理パネル）→ Projects（プロジェクト）で“Log projects information”（ログプロジェクト情報）ボックスをチェックしてください。プロジェクトに応じてのライセンス使用状況の詳細情報は[プロジェクトに応じたライセンス使用状況監視](#)をご覧ください。

最近閉じられたドキュメント

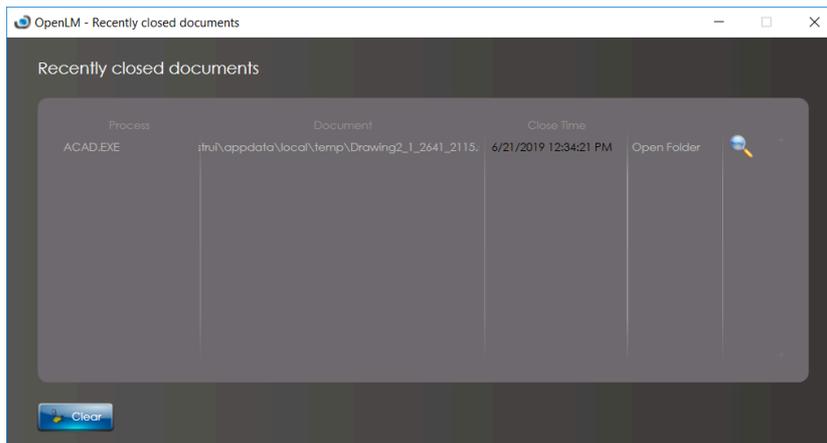
上述された通り、OpenLM Agentはソフトウェアアプリケーションを閉じ、ライセンスを回収する様々な方法を使用します。詳細はこれらのアプリケーションの各注意をご覧ください。

- [ライセンス回収（手動）とアイドルアプリケーション時間の監視](#)
- [アイドルアプリケーションのライセンス回収 - 強化されたAgentプロシジャ](#)
- [アイドルアプリケーション\(MATLAB, Autodesk, ArcGIS, Solidworks\)のライセンス回収 - Save and Close（保存と閉じる）](#)
- [アイドルFlexLMアプリケーションのライセンス回収 - Suspend and Resume（一旦停止と再開）](#)

加えて、アプリケーションは事前に定義された時間で自動的に閉じることが出来ます。EasyAdmin Start（スタート）→ Administration（管理パネル）→ “Active Agent”（アクティブエージェント）→ “Extension dedicated”（専用拡張機能）→ “Actively shut open applications down at”（～で開いているアプリケーションを閉じる）ボックスをチェックしてください。

OpenLMはそのような管理者のライセンスのシャットダウンを“Recently closed documents”（最近閉じられたドキュメント）

ウィンドウで表示します。

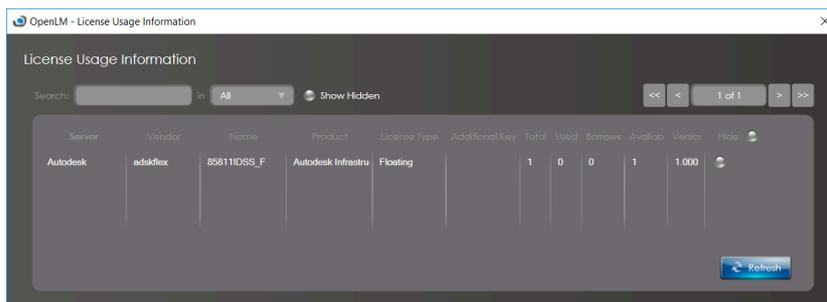


虫眼鏡をクリックすると、シャットダウンを控えているアプリケーションが表示されます。

プロセス名をクリックしてアプリケーションを再開すると、利用可能であれば新しいライセンスをチェックアウトします。

ライセンス使用状況情報

エンドユーザーのワークステーションからライセンスの利用可否をクエリーする能力はライセンス使用性を向上するのにとても重要なステップです。ライセンス使用状況ウィンドウはライセンスサーバーごとに使用中、ボロー中、利用可能ライセンスの合計を表示します。特定のライセンス（例：Autodesk）をチェックアウトしているアクティブユーザーのリストを得るには行をクリックしてください。ユーザーのエントリーをクリックすると、OpenLMデータベースに記録されたユーザー詳細を見ることができます。



ライセンス使用状況ステータスは“Hide license status query option”（ライセンスステータスクエリーオプション）ボックスをチェックするとエンドユーザーに非表示にできます。**EasyAdmin Start（スタート） → Administration（管理パネル） → Agent Policy（エージェントポリシー）** ウィンドウ

ライセンス使用状況フィルター

Agentのライセンス使用状況ウィンドウでエントリーをフィルタリングする2, 3の方法があります。エンドユーザーは関心のあ

るライセンスの情報のみを見る事ができます。

1. 'Search' (検索) テキストボックスを使用してください。

2. [roles and permissions \(役割と許可\)](#) をユーザーやグループに適用する事で、提供情報を特定のライセンスサーバーに限定できます。

3. 単一のフィーチャーでエントリーをフィルタリングする解決方法は、OpenLM_Agent.config XML ファイルを編集することで達成できます。:

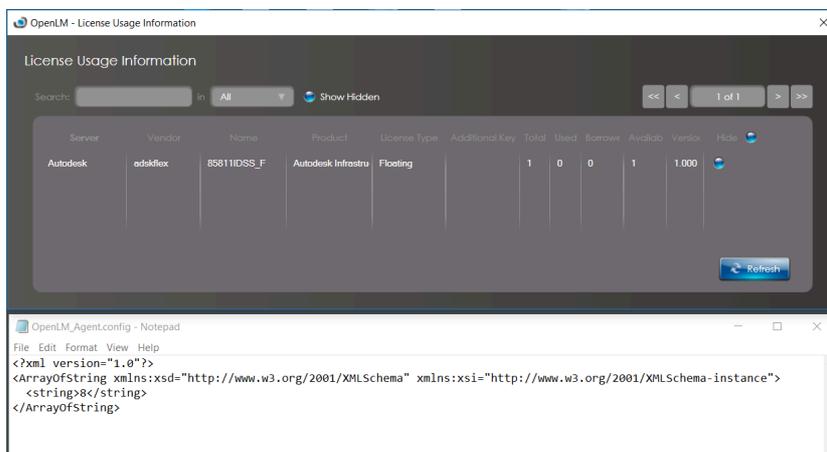
3.1 Agentの“License usage information” (ライセンス使用状況情報) ウィンドウを開く。

3.2 OpenLM_Agent.configファイルを開いてください。

C:\Users\\AppData\Roaming\OpenLM Windowsのスタートメニューでもこのフォルダーは見つけれられます。

Start → OpenLM → OpenLM Agent logs folder

3.3 ユーザーに見せたくない各エントリーで非表示ボタンをチェックしてください。自動的に適切なエントリーをOpenLM_Agent.config XMLファイルにします。



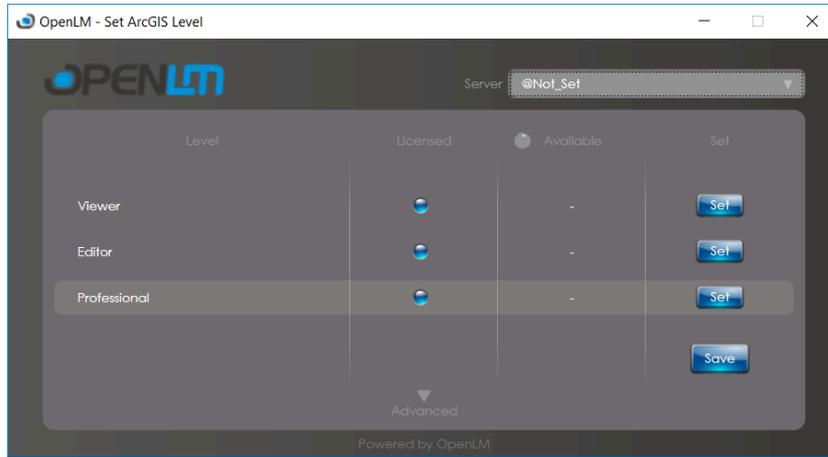
3.4 必要なフィーチャーのみ見せるこのファイルは複数のユーザー間でコピーされ配布できます。

ArcGISライセンスレベルの設定

3段階のライセンスレベルがArcGISでは利用可能です。(高→低): Professional (プロ)、Editor (編集者) とViewer (視聴者) です。ArcGISエンドユーザーはソフトウェアを起動する前にこのライセンスレベルを設定できます。そのソフトウェアは選択された



レベルで開始します。



設定されたArcGISライセンスレベルのオプションはデフォルトで変更を不可にするため非表示になっています。表示するには EasyAdmin Start (スタート) → Administration (管理パネル) → “Active Agent” (アクティブエージェント) → “Extension dedicated” (専用拡張機能) → “Hide Set ArcGIS License Level from agents checkbox” (～ボックスを非表示にする)。詳細については[ESRI ArcGISライセンスingleレベルの設定](#)をご覧ください。

OpenLMについて

OpenLM AgentとServerのバージョンを表示します。

Exit (退出)

ロカールのワークステーションでエージェントのソフトウェアをシャットダウンする選択はデフォルトで非表示になっています。表示するには “Hide exit option for local administrator” box (～ボックスを非表示にする) をアンチェックします。 **EasyAdmin Start (スタート) → Administration (管理パネル) → Agent Policy (エージェントポリシー)**

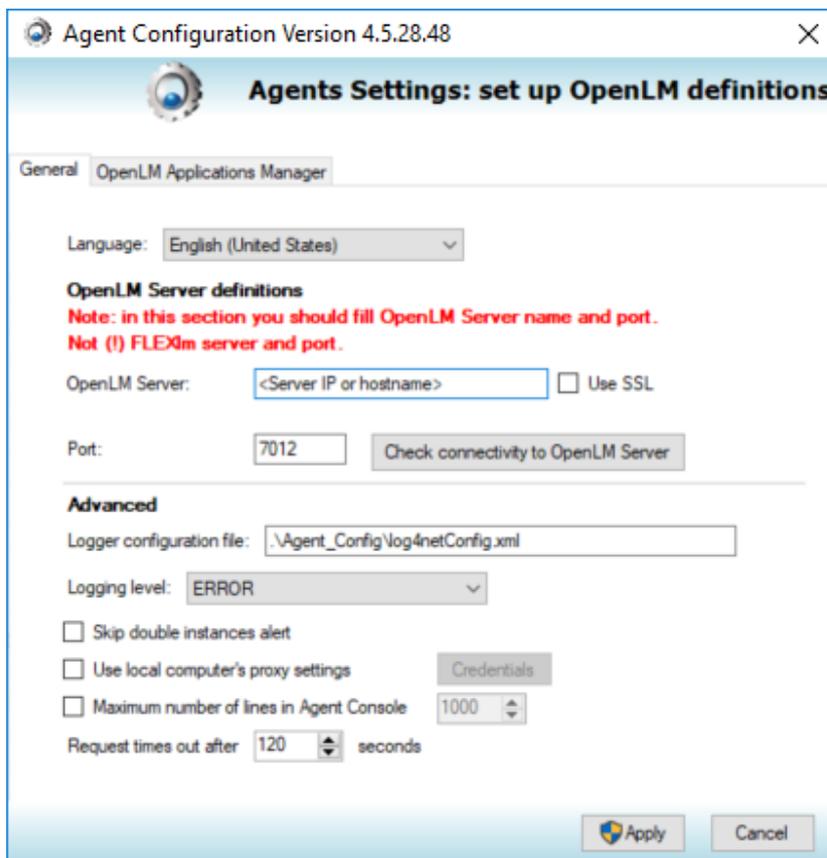
注意: Agentが閉じられているとき、OpenLMはそのコンピュータのライセンス活動を確認できません。それ故、アイドルのライセンス回収は利用ができません。

OpenLM Agent設定フォーム

ほとんどの場合、OpenLM Agentはネットワークで全ワークステーションへのサイレント配布の手段が取られます。OpenLM Agent設定フォームは手動で設定でき、単一のワークステーションとOpenLM Serverとの接続を確認できます。

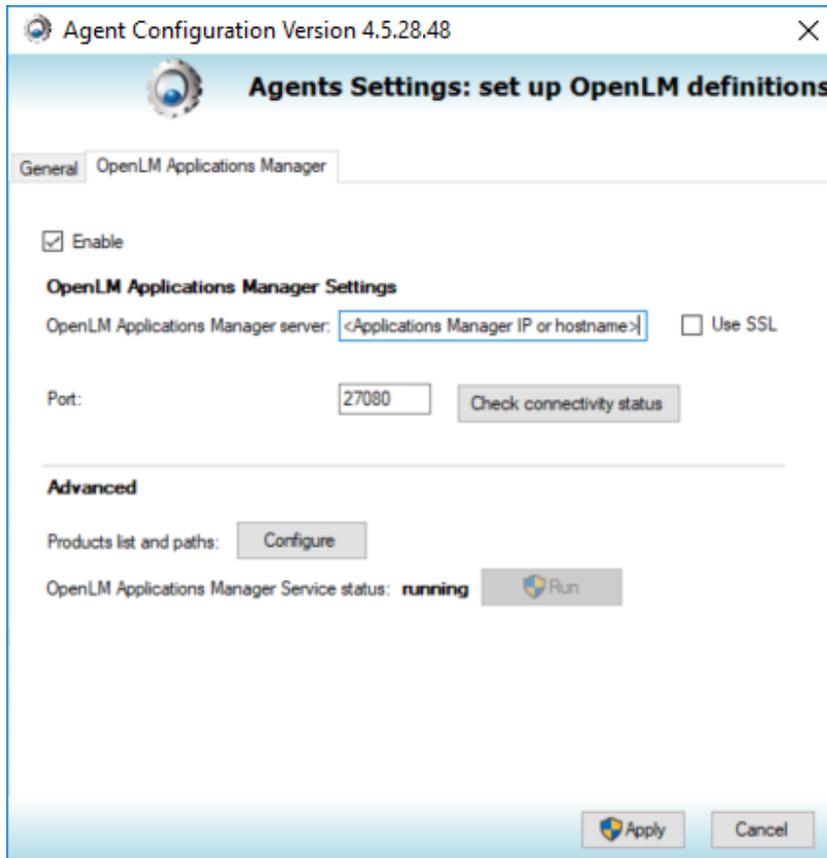
「一般」タブ

- “Language”（言語）：Agentで表示する言語をドロップダウンリストから選択してください。
- “OpenLM Server”：OpenLM serverでライセンスサーバーではありません (例.: Flexera FLEXnet)
- “Port”（ポート）：OpenLM ServerとAgent間の通信ポートデフォルトは7012
- “Use SSL”（SSL使用）：SSLのセキュア通信を使用する場合選択。SSL認証を獲得する必要があります。システムアドミニストレータの仕事となります。
- “Logger configuration file”（ロガー設定ファイル）と “Logging level”（ロギングレベル） Agentの ログファイルの場所とログレベルが設定できます。
- “Skip double instance alert”（2重インスタンスアラートのスキップ）（デフォルトで不可）: 第2のAgentインスタンスを開こうとすると出るアラートを止めます。
- “Use local computer’s proxy settings”（ローカルコンピュータのプロキシ設定を使用）（デフォルトで不可）: プロキシを通して OpenLM Serverと通信/|>
- “Maximum number of lines in the Agent Console”（コンソール画面での最大行数）：Agentコンソールは便利なデバッグツールでAgentのステータスを説明します。開くためには、Windows Start（スタート） → OpenLM → OpenLM Agent Console



OpenLM Applications Managerタブ

このタブにある設定オプションはApplications Managerに関するAgentの設定です。(例：特定のアプリケーションの立ち上げを傍受する。)



EasyAdminのAgent設定ウィンドウ

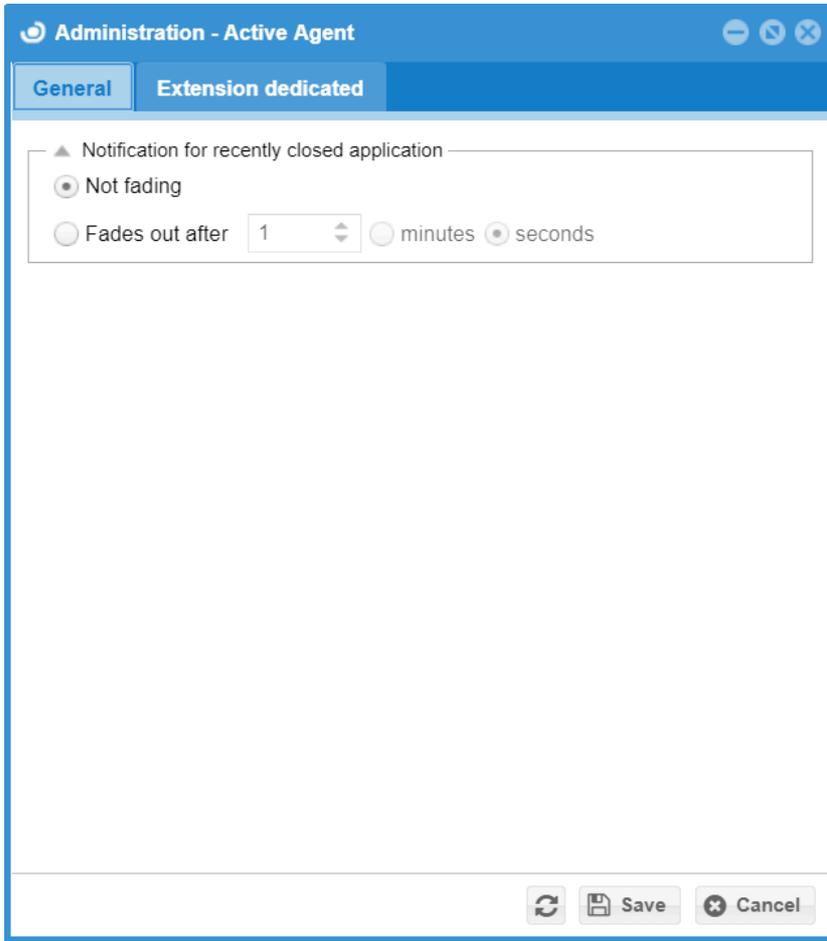
EasyAdmin管理ウェブアプリケーションでAgent用に2つの設定ウィンドウがあります。

1. "Active Agent" (アクティブエージェント) : EasyAdmin Start (スタート) → Administration (管理パネル) → Active Agent (アクティブエージェント)。設定の詳細については[アクティブエージェントのハウツー](#)をご覧ください。

2. "Agent Policy" (エージェントポリシー) : EasyAdmin Start (スタート) → Administration (管理パネル) → Agent Policy (エージェントポリシー)。このドキュメントの上部で設定の詳細は



説明されております。



+81 (0)50 5893 6263

sales@openlm.com

